

平成27年第12回飯舘村議会定例会一般質問通告書

平成27年11月27日・午前10時30分・受付 No. 1-1

議席	通告者氏名		
7番	佐藤 八郎		
質問事項・内容		答弁者	答 弁 内 容
1. 村民主人公の村づくりについて		村長	
1-1	各種委員は同人が当たり、国・県より早くトップダウン発表し、マスコミを利用して、決定されたかのような行政の在り方をやめること。		
1-2	各地区、各組織のコミュニティが、元通りに運営できるか心配されている。村行政として公募制により希望ある村民の活用をすべきである。		
1-3	この間の総括をどうされたのか。成果をどのようにいかしていくのか。	村長	
2. 村民の健康を守ることにについて		村長	
2-1	村全面積約85%に危険毒物（放射性物質）が置かれたままであるが、村民が生活することでの対応を示せ。		
2-2	元のような時間で暮らすことでの放射線量の村の基準値を示すこと。		
2-3	これまでの実証（見守り隊、8企業、職員など）結果示すと共に、そこから得た被ばくを少なくする施策を伺う。		
2-4	放射能被害検査（甲状腺検査、血液、尿、歯、WBCの全て）をしての実態と生涯にわたる検査、あわせて、検診・医療を無償で受けられるよう「原発事故健康手帳」を全村民に交付すること。	村長	

平成27年第12回飯舘村議会定例会一般質問通告書

平成27年11月27日・午前10時30分・受付 No. 1-2

議席	通告者氏名			
7番	佐藤 八郎	質 問 事 項 ・ 内 容		
		答弁者	答 弁 内 容	
2-5	避難とは移住生活であるが、村は、何をもって原発事故との因果関係あつての病気・死亡としていくのか示せ。	村長		
3. 避難指示解除について		村長		
3-1	加害者代理の解除でなく、村民の合意が重要である。国が示している3要件を村としてどこまで求めるのか。			
3-2	国・県は「移住やめて帰村する方のため」であり、全ての村民への帰村とはしていないとしてるが、村の考え方を示せ。	村長		
3-3	原発事故によつての損害については、一律に賠償するよう東電を指導し、解除によつて終わりになるものでないと国の回答あるが、村としては、村民のためにどう対応されるのか伺う。	村長		
4. 放射性物質除去と隔離について		村長		
4-1	除染の成果とこれからの計画・実施状況を示せ。			
4-2	村民からの要望内訳と対応しての成果を示せ。			

平成27年第12回飯舘村議会定例会一般質問通告書

平成27年11月27日・午前10時30分・受付 No. 1-3

議席	通告者氏名	質問事項・内容		答弁者	答弁内容
7番	佐藤 八郎	5. マイナンバーでの責任について		村長	
		5-1	施行されるが、問題点・課題の整理をどうされて、村・村長として責任はどうとるのか。		

平成27年第12回飯館村議会定例会一般質問通告書

平成27年11月30日・午前8時20分・受付 No.2

議席	通告者氏名			
8番	佐藤 長平	質 問 事 項 ・ 内 容		
		答弁者	答 弁 内 容	
1. 農林業の復興再開について				
1-1	避難解除に向けた営農再開について、農業振興から農業新興への転換が求められている。六次化産業を見据えた準備計画と施策について、所見を伺う。	村長		
1-2	林業振興に森林除染はかかせないが、林業再開、伐採、搬出の指針は居住制限区域の林業振興の妨げとなっている。区域内での林業再開可能な指針の国・県への要求が必要だが、対策を伺う。	村長		
1-3	森の恵みとしての山菜に愛着を持っている村民が多い。先例事業として、村民農園の造成と、山菜栽培の試作を実施してはどうか、所見を伺う。	村長		

平成27年第12回飯館村議会定例会一般質問通告書

平成27年11月30日・午前9時50分・受付 No.3-1

議席	通告者氏名
1番	高野 孝一

質問事項・内容		答弁者	答 弁 内 容
1. 除染について			
1-1	除染が計画と比べて遅れていると考えるがこれまでの農地等除染の進捗状況と今後の見通し等について伺う。	村長	
1-2	地力回復工事の進捗状況と今後の見通しについて伺う。	村長	
1-3	遅れている要因についてJVとどのように協議しているのか伺う。	村長	
1-4	除染の遅れが避難指示解除の遅れにつながると考えるが見解を伺う。	村長	

平成27年第12回飯館村議会定例会一般質問通告書

平成27年11月30日・午前9時50分・受付 No.3-2

議席	通告者氏名
1番	高野 孝一

質問事項・内容		答弁者	答 弁 内 容
2. 関東・東北豪雨災害について			
2-1	去る9月の関東・東北豪雨災害における村内の被害状況についてどのように捉えているのか見解を伺う。	村長	
2-2	今回の被害の拡大は、総雨量のみならず河川内の木の繁茂や土砂の堆積も要因のひとつである。 早急に対応すべきであり見解を伺う。	村長	
3. 教育行政について			
3-1	村の学校等の再開時期を平成29年4月とする村長の発言や報道に対し、地域や保護者等から多くの異義が出されているが、見解を伺う。	村長	
3-2	地域や保護者等からは引き続き仮設校舎での教育を希望しているが見解を伺う。	村長	